

# 宍道湖流入・流出水調査月報

(平成12年2月期)

## 水質概要

2月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層4.5、中層4.6、下層4.5)と比較すると平年並の値を示していた。図1に示すように、2月の水温は、4~6で変動しており、顕著な変化は見られなかった。2月においては高塩分水の流入時に2~4の水温の上昇が見られた。特に2月9日、15日および21日の20psu以上の高塩分水の流入時には約3~4程の上昇が見られた。

2月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層3.3psu、中層3.9psu、下層4.3psu)と比較すると、上層・中層・下層ともに高い値を示していた。2月においては15psu以上の高塩分水の流入は12回観測された。

2月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係が見られた(2月9日、15日、21日の3日間が顕著であった)。(図2参照)

2月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに9.4~10.6mg/lと比較的高い値を示していた(平均値:上層8.6、中層:7.9、下層:9.6mg/l)。

図1に示すように、上旬から下旬にかけてほぼ同じ変動をしており、全層にわたって9.4~10.6mg/lと高い溶存酸素濃度の値を示していた。また、15psu以上の高塩分水流入時に溶存酸素濃度の低下が見られたが、夏季に比べて極端な低下は見られなかった(最低6.0mg/l)。

表1 2月期の水質概要

		水温 ( )	塩分 (PSU)	溶存酸素 濃度 (mg/l)
上旬	上層	4.9	6.3	9.9
	中層	5	7.5	9.5
	下層	5	7	9.7
中旬	上層	4.6	5.6	10
	中層	4.9	7.8	9.4
	下層	5	8.1	9.5
下旬	上層	4.6	6.1	10.5
	中層	4.8	7.6	9.8
	下層	4.8	7.4	10.6
月間平均 (10月)	上層	4.7	6	10.1
	中層	4.9	7.6	9.6
	下層	5	7.5	9.9

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年3月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

## 水質

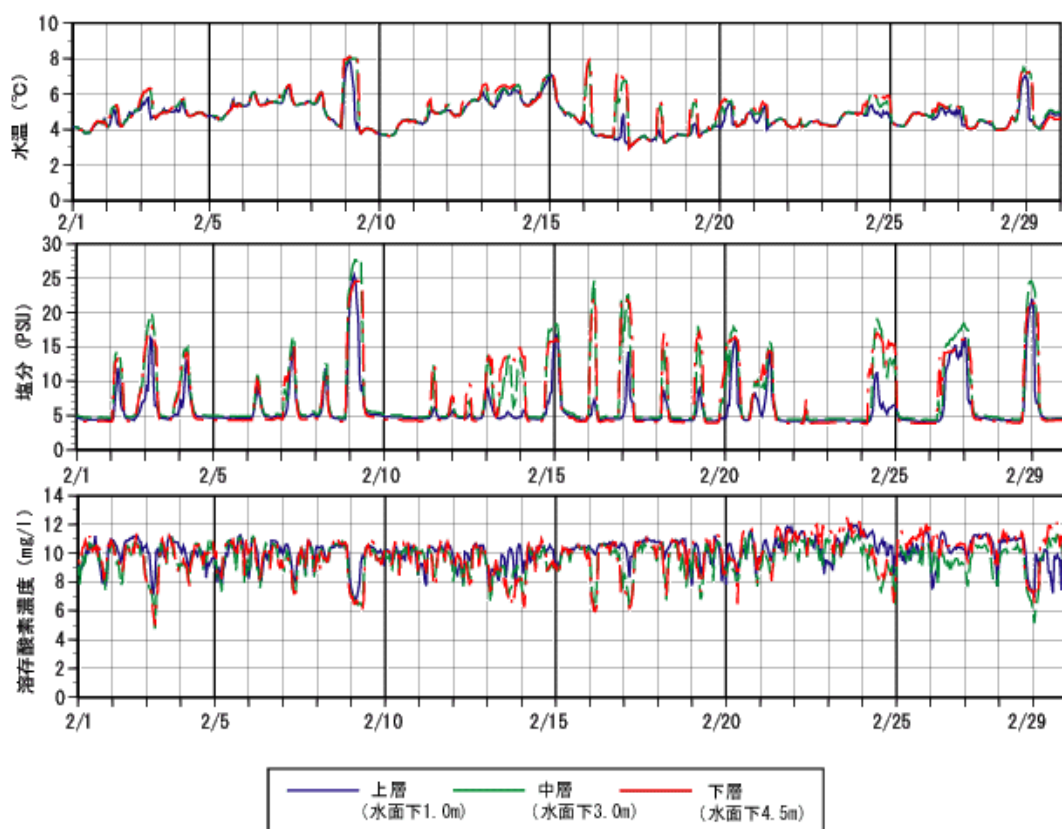


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

## 気象概況

2月は、表2に示すとおり、平均気温3.6（平年値3.7）であり、平年並の変動であった。

図2に示すように、2月の気圧変動は、2月9日、15日、21日に顕著な気圧の低下が見られた。

平均気圧1012 hPaは、平年値（平年値1020 hPa）と比較して若干低かった。

表2に示すとおり、2月の日射量は、0.046 MJ/m<sup>2</sup>以下がほとんどであり、1月と比較して大きかった（1月平均値：0.029 MJ/m<sup>2</sup>）。

2月の風向・風速は、平均風速3.9 m/sec（平年値2.2 m/sec, 西風）であり、平年値と比較して若干高い値を示していた。

表 2 2 月期の気象概要

	気温 ( $^{\circ}$ )	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m $^2$ )
上旬	3.9	1014	3.6	南西	0.039
中旬	3.9	1008	4.3	南西	0.042
下旬	2.9	1014	3.8	南西	0.057
月間平均 (2月)	3.6	1012	3.9	南西	0.046

( 平年値は、平成 11 年気象の暦 ( 山陰版 ) ( 財 ) 日本気象協会中国センターより引用 )

( 表中の数字は、平均値を示す )

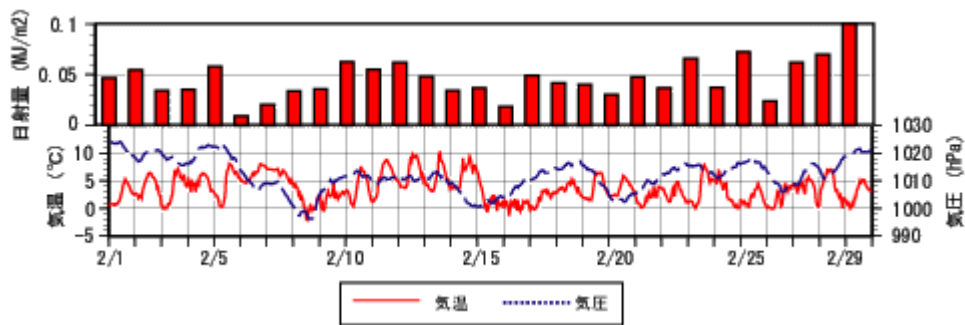


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

## 流況

2 月の平均東方流速は、上層 25.1 cm/sec、中層 31.1cm/sec、下層 31.8 cm/sec であった。また、図 3 に示すように、2 月の東方流速は、2 月 9 日、15 日、21 日の気圧低下時に中海から宍道湖へ向かう流れが卓越していた。

2 月においては、全体的に宍道湖から中海に向かう流れが卓越していた。このことは、冬季の冬型の気圧配置による高気圧によって日本海水位が低いためと考えられる。

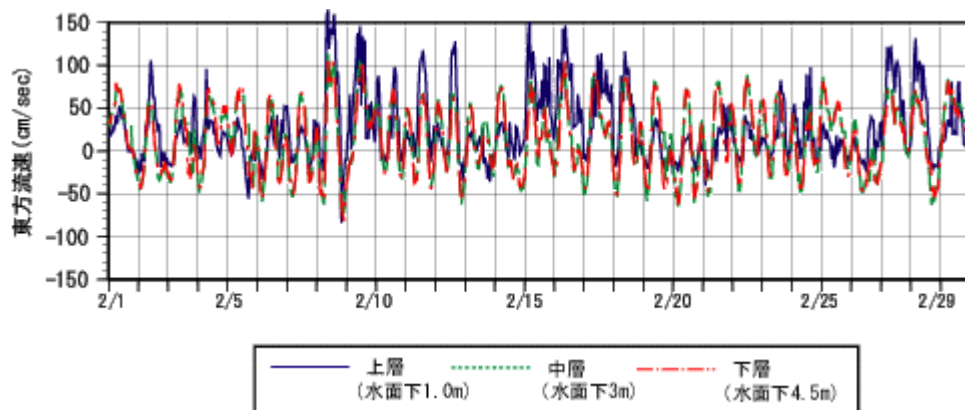


図 3 東方流速の時系列変化